

○その他

コールサイン	その他の意見
1 JM1FDC	5. 家庭内の事情もあり、2日間に渡るコンテストに参加することが難しいです。1日間で6時間程度にならないでしょうか。
2 7K1PTO	昨今の手頃なメーカー製QRP無線機事情や賑わう登山(山岳移動)やアウトドアでの無線運用、無線再開(再開局)者が手軽に小型(QRP)機などでも参加し、入賞やより多くの興味を持っていただく、コンテストに参加し、手軽にQSOやQRPでもコンテストならではの沢山の局とQSOする楽しさ機会などを感じて頂くために、全ての4大コンテスト(既に設定されているものもあります)で、QRPの部門を設定してクラス分けで開催し大電力、大規模設備でなくとも、入賞したり参加したりする楽しみを感じてもらえる4大コンテストにして頂きたいです。
3 JH3IJF	1. フィールドデーコンテストをオールJAコンテストの1部門とする 2. フィールドデーコンテストの局種係数の見直し、本来のフィールド運用をより重視する設定 3. 新たに許可になった拡張1.9M帯での国内コンテスト利用
4 JE8KKX	コンテスト委員会は日程変更ありきの提案に思える。
5 JF4CAD	今回の検討に際し都道府県支部の開催するコンテストとの競合を問題にされていますが、アマチュア局が減りコンテスト参加局も大きく減っています。中には競技として成り立っているとはいえないゾンビコンテストも出ています。そろそろ開催意義を失いログ提出局が大きく減っている支部コンテストへの廃止勧告や使用バンドの21MHz以上への制限など大鉈をふるうべきではないでしょうか？地方コンテストはエリア毎年1回＋経過措置で特にログ提出局の多いコンテストのみにしてもいいと思います。JARL本部主催・地方支部主催に関わらず現状のコンテストのあり方について今の大枠を変更せず、日程だけの小手先の変更では何も解決しないと思います。3年くらいかかってもいいので会員からの意見をしっかり聞き今後20年30年間のコンテストのあり方から再検討して欲しいです。
6 JR4FLW	コンテストの集計ご苦労様です。出来れば、少しでも結果の発表を早めていただきたいです。また、個々のチェック結果を送られてからは早期に発表していただきたいです。
7 JQ1VDJ	国内コンテストにおけるハイパワー局の最大電力の制限をそろそろ検討する時期では、ないでしょうか。QSOパーティーにおいては、期間延長ではなく、ステッカーを頂ける交信数を半分の10局にしてはどうかと思います。
8 7L1WQG	6m AND DOWNコンテスト、7月第一土日ですが、梅雨時期なので、野外での移動運用が困難コンテストでは、U・SHF帯での参加局も多く、その運用形態が野外(山岳)に移動して運用する為に雨天での運用は殆ど不可能となる。SHF帯では多くの場合、アンテナと無線機が一体型で有る、また降雨での電波減衰が大きい7月第3土日、または7月第4土日を希望する。
9 JF3EBO	「他のJARL主催コンテストとの入れ替えについては、 ・ALL ASIAN DXコンテスト: 6月の電信部門、9月の電話部門を真夏に実施することはコンディショナルにふさわしくない。」と判断しています。」 について、電離層電波伝搬としては、5, 6, 7月が夏と思われる。すなわち、6月の電信部門こそが、コンディショナルな真夏に、既に実施されているのであり、コンテスト委員の判断にはずれがあるように見受けられる。
10	現在のフィールドデーの開催時間に問題があると思います。 以前は、21時～15時だったのを、18時～12時に変更したのが間違いだったと思います。 みんなが土曜日が休みではありません。 どうしても18時に電波を出すには、14時位から準備をしないと行けません。 お日様の下、暑いです。食事の時間もとりづらいです。 21時であれば、16時くらいから十分に余裕があります。 仕事が終わって、駆けつける人などで、アンテナ設置などの人手が集まり、食事でパーベキューなどもできます。 また、終わる時間も12時だと一番暑い時間に片付けなければなりません。15時だと少しは涼しくなります。
11 JH1GOF	コンテスト周波数とJT65・FT8等との住み分け検討は進んでいますか？
12 JH4UYB	1.8/1.9MHzバンドのコンテスト使用について、2012年意見募集結果でもこのバンドのコンテスト復活を決定したはずですが、今まさに3.5MHzと同等以上の周波数が割り当てられ、SSBの運用も許可されました。JARLコンテストでのバンドプランを大至急策定すべき時でしょう。JARLの動きを各地方本部、各コンテスト主催者は日々注視しています。1年先のFDコンテストよりも1.8/1.9MHzのバンドプランこそが、現在のコンテスト委員会に求められている最重要課題ではないでしょうか。
13 JJ4MEA	以前の国内コンテストでは参加証ハガキがあり日本地図を作ったの楽しみがありましたが、参加証廃止になり楽しみも無くなりそれ以降コンテスト不参加してます。 コンテスト参加&サービス局も少なくなり寂しいコンテストになりこちら4エリアではお空も静かになってます。 ※今年予定してた「東京2020 JARL記念QSOパーティ」が中止になりJARL主催の原会長メモリアルアワードも来年で終了します。 毎年色々な企画でアワードのようなものが開催されると楽しみがあるように思います。最近では「JARL90周年記念アワード」「YAESUコンテスト」でした。何か目的があれば無線も楽しくなります。
14 JH0MUC	開催時刻は以前に戻して21時～15時を望みます。 18時スタートではフィールドでコンテストの最大の目的である焼肉をする時間を設けられないからです。 12時終了では昼飯も食べずに片付けなくてはならないからです。
15 JQ1ARQ	*意見募集を行っていただきありがとうございます。 結果を公開される時にコールサインも合わせて表示されるとのことですが、コールサインがでてしまうのなら意見はあるけど送らないという話を複数聞きました。 そのような声がありましたことをお伝えします。 *各個人それぞれ状況が違いますので、全員が納得する内容での開催は無理だと思います。 決まった内容で納得がいくなら参加するし、そうでないなら参加しないということでもいいかと思いますが一人でも多くの方が楽しめるようなFDコンテストになればいいなと思います。
16 JK1VUZ	1) フィールドデーコンテストのQRP種目について フィールドデーコンテストのQRPIについて、独立した種目とするのではなく、ALL JAコンテストと同様に、430MHzバンド以下の電信、電信電話部門の各種目の中でハイパワー局とは別に表彰する方式の採用を提案します。 2) フィールドデーの局種係数について EVが普及し自動車移動運用での大容量電源の確保が容易になっています。 EV電源による運用はフィールドステーションBとすると、徒歩移動局(あるいは可搬電源)の局種係数を増やすなど、電源確保の難易度が高い徒歩移動局の差別化を図ることを提案します。 3) 共通規約について 共通規約のセルフスポッティングを禁止する規定の廃止を提案します。 参加局数が少ない種目もあり、セルフスポッティングを解禁することにより活性化が図れると考えます。

	コールサイン	その他の意見
17	JG6MDS	FDコンテストの開始時間は、他のコンテストと同様に、21時開催に変更を希望します。 移動した上で、コンテストの準備を行い、15時からの開催ですと時間が足りなくなっているのが現状です。 また、日中の準備の後、日が暮れて涼しくなり、一休みしてからコンテストに参加できますので、体にも優しい時間帯となります。 紙ログの提出は、そろそろ終了し、全面的に電子ログへの移行を希望します。 (もしくは、紙ログは、100局以下に限定する等、対応をご検討ください。)
18	JO1EUJ	総務省のパブリックコメントでは、意見公表時には、個人名は伏せ、団体名は公表している。 これによりJARLやJARdが出した意見は特定しやすいが、これはJARLもJARdも公益性がある活動をすることから、意見公開は当然である。 しかしながら、個人の意見の場合は、意見を異にする者からの個人攻撃を受ける要因になりえる。 募集した意見を効果推するにあたって、意見提出者のコールサインと氏名を公開する理由は何か。 「自分の発言に責任を持ってもらうため」なのか。 意見提出者は責任をもって意見を出しているのである。小ばかにするのは止めてほしい。 しからは、コンテスト委員会の見解を公表する際には、委員の多数見解だとしても、最初にその見解を言いだした委員と、それに賛同する委員のコールサインと氏名も公表しろ。 当然ながら、公表されたコールサインと氏名と意見が原因で論争が起きたり、何らかの刑事事件とするような事態にまで発展した場合は、コンテスト委員会が責任を取って仲裁をすることや暴行等の犯罪行為が起きた場合においては「犯罪を誘発した責任」を取ってほしい。
19	JH8XTE	・要望：FDコンテストにかかわらず、HFローバンドやHFハイバンド種目、50/144や144/430種目などの種目増設を要望します。より楽しめるコンテストの開催を希望します。
20	JR2NTC	集計作業の負担が少なくなるように、また、結果発表をはやくできるように、メールでのサマリー・ログ提出を3年後には完全実施することにはどうでしょうか。 コンテストサマリーのR2.0iに対して、支部コンテストでは、R1.0で提出するようになっていて、混乱の一つになっています。このあたり、JARL本部のコンテストが音頭をとったのか、支部の対応が間に合っていないのかは分かりませんが、何か両方がwin-winの形式はないのでしょうか。 コンテスト委員会は、現在何について事を進めているのか、もう少し会員への情報公開してほしい。(これはコンテストに限らず他の委員会、理事についても同様と感じます。)
21	JA3IEZ	ホームステーションとホームステーションの交信を無効にしてください。 フィールドコンテストの目的は「野外に移動して運用するアマチュア局の交信をはかるため」と、この日程変更の意見募集にも書かれているではありませんか。
22	JG1UJD	JARLのホームページにコンテスト記録室を作ってほしい。過去のコンテスト記録をさまざまな条件で検索できるようにする。 参加部門別 歴代優勝記録とか、〇〇部門何年連続優勝記録とか、歴代最高マルチ数/交信局数を上位順にソートした記録とか、自分の成績を過去〇〇年に渡ってチェックしたいという要望は必ずあるはず。上位の記録だけでなく、マイナーな切り口で記録を見られるようになれば、記録を残そうと励みになる。自分はかつてFD 50CW 最小得点優勝という記録を持っていたのですが、破られてしまいました。こういう記録の見方ができるといいですね。
23	JE4YLV	過去の慣例などにとらわれず 都度の 情勢などに合わせて 臨機応変に改革をおこなっていただき、一人でも多くのアマチュア無線家が負担なくコンテストを楽しめる様に運営して頂きたいと思えます。
24	JL1OLH	【その他意見／フィールドデーコンテストの野外移動経験者にアンケートを】 昨年(2019年)10月の意見募集結果を見ると、8月の移動運用において熱中症になってしまった方や危険を感じた方もいらっしゃるようであることを知り、参加者の健康や安全が第一であることは改めて認識しました。 しかし、8月のフィールドデーコンテストの開催は、学生が夏休みであること、社会人も夏季休暇を取りやすいこと、クラブ局(特に学校関係)の参加のしやすさ、この時期ならではの夏山への山岳移動、さらに、コンテストに合わせた夏の野外活動の楽しみ(キャンプ、親睦会など)もあることなどを考え合わせると、捨てがたいものがあります。 フィールドデーコンテストにおける移動運用の実態をさらに詳しく把握するために、意見募集とは別に、実際に野外での移動運用経験があるコンテスト参加者を中心にアンケートを取ってみたいかがでしょうか？ まず、実際のところ、フィールドデーコンテスト参加者のうちの何人(何パーセント)が文字通り“フィールド”参加しているのか、知りたいところではないでしょうか？ そして、その人たちの熱中症の危険性や対策は実際どうなっているのでしょうか？熱中症についてのアンケート項目としては、たとえば、 ・熱中症になった(なりそうになった)経験の有無 ・熱中症対策として実施していること ・移動場所(都道府県、標高) ・運用形態(車、テント、屋根のない外、屋根などの下や建物内) ・熱中症以外にも野外で実際にあった危ない体験や事故(安全な移動運用について改めて考える上で)など アンケートの方法としては、今年(2020年)、昨年(2019年)、あるいは過去数年のログ提出局(移動局)に電子メールでアンケートし、返信あるいは回答フォームへの入力求めれば良いのでは。そして、意見募集およびアンケートの結果、実施時期変更への異論が多い場合には、熱中症対策を十分に取った上で8月実施を継続するという決定もありではないでしょうか？8月の初めは、暑さを回避できれば天候は安定していて、台風もまだ少ない時期です。 【最後に／私の経験から】 私は学生時代のクラブ局参加から始めて約40年の間、フィールドデーコンテストには毎年移動して参加しています。 東北部(福島県)の車で行ける山中のほぼ同じ地点へ毎年移動し、テントあるいは車中で運用します。夏のキャンプを兼ねて、数人の仲間とともに楽しんでいます。 標高は数百メートルなので、気温は下界より5℃ほど低いだけですが、それでも体感的にも暑さは和らぎ、山岳移動と言うほどの高い山ではなくても、山地への移動が熱中症の回避に少なからず有効だと実感しています。 一方、実際に野外で暑さよりも活動の妨げになるのは雨に降られることです。にわか雨ならまだしも、困るのは特に設営時や撤収時の本降りの雨。足元に水たまりができたり滑りやすくなったり、設備に雨がかかったり、アンテナや濡れたテントなどをたたんで車に積み込むなどは大変。夏でさえ気温が低めのときに雨に濡れると、熱中症とは逆に体温を奪われます。そのような経験もあって、雨や台風の多い時期(9月)の実施には反対です。 なお、昨年(2019年)10月に意見募集していたのを見逃していたこともあり、今回初めて意見を提出いたします。 《参照した資料など》 ・http://www.jma.go.jp 気象庁ホームページ(気象全般) ・「理科年表 2020」国立天文台編 丸善出版(国内観測地点の年間の気温、降水量、台風などの統計) ・「JARL NEWS」2020年春号など(コンテスト予定、各地の行事予定) ・「Ham Notebook 2020」CQ Ham Radio 2020年1月号別冊付録 CQ出版社(イベント・カレンダー)
25	JR4VEV	FD-TESTにおいて、移動しない局同士の得点を、以前のようにゼロに戻してください。FD-TESTは移動する局が中心となるべきコンテストであり、その為に局種係数が設けられていますが、出力を50Wに制限しても移動しない局で素晴らしい設備をお持ちの方に対抗するのは難しい状態です。よろしくお願いたします。
26	JJ3EBU	フィールドデーコンテストの日程変更が決まった場合でも、モーニング種目もしくは類似のスプリントのマルチバンド種目の存続を望みます。 現状のモーニング種目にとらわれず、朝6時から15時までのハーフ種目、朝9時から15時までのスプリント種目でも良いと思います。検討をお願いします。 フィールドデーコンテストのモーニング種目のような、スプリントのマルチバンド種目を他のコンテストでも新設を希望します。 コンテストの最大出力を200Wに制限することを提案します。 国内交信にハイパワーは必要ないと考えます。他国への影響を考慮して、必要以上の出力は控えるべきです。

コールサイン	その他の意見
27 JO1ATK	<p>コンテスト周波数について FT8の普及により、各バンドのFT8周波数は常に何かを受信できるような状態である。 ところが14～50MHzはコンテスト周波数の中にFT8周波数があるため混信の原因となっている。 14/21/28MHzは周波数帯をズラして、FT8とかぶらない周波数にして欲しい。 21/28Mは全体に50kHzぐらい上げることも可能だと思われる。 50MHzについてはJARLコンテストについての意見募集結果発表のとおりで賛成です。地方コンテストにCWで参加すると不参加のSSB局と混信していつも困っていました。拡大された1.8MHzはJARL主催コンテストでも使用可としてほしい。 多くの局がロングワイヤー+ATUのアンテナとなるだろうが、それでもそれなりに飛ぶので、このバンドの特徴が楽しめると思う。バンドのアクティビティが上がることで、1.8MHzから1.9MHzまでの連続化(再拡大)の議論につなげて欲しい。 JARL東京支部で、紳士的に配慮して欲しい周波数に上げてい433.30MHzでアナログFMでコンテストQSOをしている局がいる。これについても周知が必要ではないだろうか。 デジタルモードについてFT9/FT4のデジタル部門を新設して欲しい。まずはJARL地方コンテストからとなると思うが、微弱信号でもデコードできるWSJTモードをコンテストで使えば、新たな発見が出来ると思う。WSJT-X等の現状の仕様ではJAのコンテストルールからは離れているので、マクロなどでの対応や、オプションとして開発チームに対応して貰うなどが必要になるのかもしれないが。局数が多くなれば、通常の運用周波数からズレたところも使用可とすればよいと思う。3kHzの一波だけなら、WARCバンドでもデジタルのみコンテスト開催が可能では無いだろうか？ UHFのマルチブライヤーについて現在、2400MHz帯以上が市郡区マルチとなっているが、最近では1200MHz帯のアクティビティが下がっているため、1200MHz帯以上を市郡区マルチとして欲しい。一時期に比べメーカー製の1200MHz帯搭載機種がだいぶ減ってしまったが、コンテストをきっかけに1200MHz帯にオンエアする局が増えればよいと思う。 一時業務の業務用無線局との混信は当方では入感したことが無いが、これらの局から逃げるためのバンドプラン変更も必要では無いだろうか？ コンテスト時のQSLカードについて コンテストのQSOでも、全てのQSOに対してパソコンでカードをプリントして送っている局がかなり存在する。 何十回と同じバンド同じモードでQSLカードを送りつけ、それでも交換するのが当たり前だと豪語する人もいる。一部の地方コンテストでは、このような事をしないように勧告を規約に盛り込んでいるので、これをJARLコンテストの規約にも盛り込んで欲しい。当方では今までのログデータとコンテストのLOGデータを照合して、ファーストコンタクトとなるバンドモードのみカード発行しています。</p>
28 JH1PVJ	<p>私を含め、毎年FDを楽しみに参加している皆様は、暑いのは承知で参加していると思います。日程変更の趣旨は理解しますが、競技としての楽しさがなくなってしまうたら本末転倒です。9月第3週になったら参加者が激減するのが目に見えています。</p>
29 JR1SIM	<p>1971年に「VHF」と「2m & down」が統合されて「6m & down」となったと同時に「フィールドデイ」に「エマーゼンシー」が統合されたが、エマーゼンシーの特徴を引き継いだのは電源の種類くらいである。 夏のコンテストは、仮称「サマーゼンシー」として非常通信周波数4630kHzの訓練を兼ねるものとしたらどうであろうか。この周波数は漁業用海岸局か防衛省の無線局しか割り当てられておらず、年一回の訓練ならば総務省の了解も得られやすいだろう。むろん局数を競うものでなく、JARLや日赤奉仕団など一部の社団局が間歇的に(毎時0分と30分から10分間は聴守時間であるから)交信し、その他の局は訓練として1回のみ交信する。交信のみではなく受信だけでもしたらボーナス点を与えるものとするれば、4アマでも参加可能である。8月上旬は台風の季節入りで1ヶ月後の9月1日は防災の日であり、非常時の社会貢献を考える機会にもなる。</p>
30 7K1BIB	<p>(1) 今回のアンケートのように、JARLとして会員の意見を募集することはとてもよいことであるが、報告書として公表する際にコールサインを表示するのは、公表を恐れて意見を差し控える人もいることを考慮すると、適切ではない。政府が行うパブリックコメントでも、個人の氏名は表示されない。コールサインの公表はやめていただきたい。 (2) コンテストと災害 前回の意見募集の際に提出した意見を再提出する。 昨年の全市全部コンテストは、関東地方への台風19号の接近と重なった。一部には、コンテストは中止すべきとの声もあったが、台風の影響がなかった地域もあるから、中止する必要はない。むしろ、コンテストを中止してバンド内が閑古鳥になるよりも、多くの局が出ている方が、非常通信も拾ってもらいやすくなると思う。 そのような趣旨を貫徹するために、コンテスト委員会からは、注意を喚起するアナウンスだけではなく、例えば以下のような、非常通信との関係を具体的にアナウンスされることをご検討いただきたい。 ①非常通信を最優先とし、非常通信が聞こえてきたときはワッチに専念すること。 ②情報の伝達ができる環境にある局は、コンテスト中であっても、無線または公衆回線等を用いた情報の伝達に協力すること(情報伝達に協力したコンテスト参加局は別に表彰することも検討に値する。) ③災害が予測される地区において非常通信周波数が定められているときは、その周波数を周知させ、その周波数はコンテストには用いないこと。</p>
31 JJ2JQF	<p>・このように意見募集をしてくれることは大変良い試みと感謝する。 しかし、前回の意見募集もだが、コンテスト委員会の案が現在進行形でコンテストに真剣に取り組んでいる人から出るものとは思えない。 コンテスト委員長含め、公募とし、オープンな場での選任とすべき。 ・FT8などの普及でバンドによってはコンテストに参加していない運用者との懇親や軋轢が予想される。 コンテスト周波数を見直してもよい時期ではないか。</p>
32 JA3EIZ	<p>この意見公表は氏名も含めて公表だが、総務省のパブコメでも発言者が公表されていないのに何故公表するのか疑問である。まるで発言を抑圧しているように感じる。 JARLNEWSのPDFを見ようとしたら7月31日現在まだアップされていない。極端な話、印刷やに原稿を送信するときに、WEBにアップすれば済む話であり再考を要する。</p>
33 JA1TAZ	<p>①QRP部門では430MHzとなっている高い周波数帯の活性化のため1200MHz以上も含めて欲しい。</p>
34 JA3HBF	<p><コンテスト時におけるQSLカードの交換について。> 前委員長にコンテスト時における「不要」なQSLカード交換をやめるような「啓蒙活動」を行うべきとの意見を出しましたが、前委員長からは「これはコンテスト委員会の職掌では無い。」と回答されました。しかし、これはコンテスト開催時に付帯する事項なのでコンテスト委員会が「啓蒙活動」をするべきだと考えています。毎回の如く送られてくる「コンテスター」からのQSLカードにはうんざりです。 この問題は国内だけに限らず、海外からも批判の声が多く出ています。海外においては受け取る側も「有料」の国があると聞きます。コンテスト終了時に無差別にカード発行はやめさせるべきです。必要なカードのみにするよう働きかけて下さい。</p>
35 JR3CNQ	<p><コンテスト時におけるQSLカードの交換について。> 前委員長にコンテスト時における「不要」なQSLカード交換をやめるような「啓蒙活動」を行うべきとの意見を出しましたが、前委員長からは「これはコンテスト委員会の職掌では無い。」と回答されました。しかし、これはコンテスト開催時に付帯する事項なのでコンテスト委員会が「啓蒙活動」をするべきだと考えています。毎回の如く送られてくる「コンテスター」からのQSLカードにはうんざりです。 この問題は国内だけに限らず、海外からも批判の声が多く出ています。海外においては受け取る側も「有料」の国があると聞きます。コンテスト終了時に無差別にカード発行はやめさせるべきです。必要なカードのみにするよう働きかけて下さい。</p>
36 JM3WYA	<p>アマチュアコードにあるアマチュアは進歩的であること。の通り、いつまでも紙ログでの提出はいつまでも古い球の無線機を使い続けるのとは意味が異なります。 コンテストの敷居を下げ参加を促すことはとても大事な事です。パソコンも満足に使えないような低レベルなアマチュア無線家は進歩的国際的では無く、その歩調を大多数の電子提出しているアマチュア無線家の不利益につなげるのは納得がいきません。 紙ログ、フォーム以外のログ提出を廃止し、いくらなんでもログ締め切りはコンテスト終了日から10日以内とし、コンピュータ全盛の時代なのにリザルト発表に数ヶ月以上も掛けるような昔ながらの対応は改めてもらいたいです。</p>
37 JR1UJX	<p>・個々の強い意見に委員会の方針が左右されていると感じます。サイレントマジョリティーの存在も考え、安易な変更は避けて頂きたいと思ひます。 ・理事会報告を含め、JARLには意見を出した人物を特定する風習がないなか、なぜ本意見のみ氏名を公表するのか理解できません。 責任ある意見、発言を求めめるのであれば、理事会報告にも各理事の意見、賛否を明示することが当然と考えます。</p>
38 JH3AGV	<p>・50MHzのコンテスト周波数を従来に戻して貰いたい。 ・FDは移動局との交信のみポイントとするこれも従来のルールに戻して貰いたい。 ・国内コンテストは、祝日を活用し海外への混信妨害を回避する。 ・紙ログ提出を廃止し、結果発表を迅速に。 ・賞状はPDFで可。</p>

コールサイン	その他の意見
43 JH2GMK	<p>例えば熱中症対策に限らず、体調面を言うならコンテスト時間を考えるべき。 徹夜で運用するのが身体によいわけがない。クラブ局で交代でフルタイムやるのはそれでも良いが学校等で夜間の運用が出来ないクラブもあるわけで最初から上位入賞は無理で参加するのと部門で少しは上位可能性があるのはモチベーションも違うと思う。部門を増やして短時間部門であるとか点数だけを競う部門以外の部門を作るべき。コンテスト実施時間内のうちの3時間参加部門とか6時間部門とか。QRP部門をさらに細分化するとか(アンテナ自作部門とか自作RIG部門とか、山に登って2時間だけ運用部門とか)アクティビティの低い地域(市町村)への移動のプラスポイントとか、リクエスト多い地域(事前に指定したトップ50の地域)での運用部門など。家族サービスの延長線で移動したときに、少しだけ時間を割いて気軽にコンテストに参加して、それでも何か結果が残るとうれしいのではないのでしょうか?どんな紙ッペラでもいいから参加証があると嬉しい。もちろんほしい人は有償にしてもいいでしょう。それでも楽しみにする人がいるはず。QSOパーティのようなシールと台紙を他のコンテストにも用意するってのも良いと思う。最近なら電子データでの参加証書でもJARL発行がちゃんとしたものならよいのではないのでしょうか。</p>
44 JK2XXK	<p>以前にも提案したが、コンテスト周波数帯の一部見直しを前向きに検討していただきたい。以下に私案とその理由を述べる。</p> <p>5-1 14MHz帯以上の電波帯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルモードとの棲み分けや昨今のV/UHF帯の混雑状況などを鑑み、次のようにしてはいかかが。 14.040～ 14.070MHz 21.040～ 21.070MHz 28.040～ 28.070MHz 50.040～ 50.090MHz 144.040～144.090MHz 430.040～430.090MHz <p>5-2 1200MHz帯におけるコンテスト使用周波数帯を新設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CW/SSBのアクティビティが低い地方部における運用の際の目安として設定。 CW 1294.040～1294.090MHz AM/SSB 1294.250～1294.500MHz FM 1294.900～1295.800MHz